

質疑あれこれ



▼施政方針

町長選挙の公約、予算編成は

◎ 鈴木町長は選挙で新しい豊山をつくる6つの約束をされた。この公約実現に向け、どのような考えで予算を編成したのか。

▲ 町長として初めて編成する令和3年度の当初予算は、税収が2億円も減少となる中、大変厳しいものであったが「一人ひとりが大切にされる」という理念のもと、事業の実施効果を十分に検証しながら適正配分に努めた。

新規の子育て支援・福祉の目的は

◎ コロナ禍で事業の廃止や見直しをする自治体が多い中、子育て支援や福祉で新規事業を展開している理由は。

▲ だれ一人取り残すことのない「住みたいまち、住み続けたいまち」に向け公的支援を講ずることにより、自立した社会生活を送っていただけのような各種福祉施策を考えた。

防災拠点の「新たな賑わい」とは

◎ 新たな賑わいを創出する場とは、どのような内容を考えているのか。

▲ 県が青山地区で整備計画を進めている防災拠点は、平時には公園やスポーツ施設として活用する予定である。これらの施設を利用される方のために、飲食や買い物ができる施設も新たに整備し、広域交流拠点となるように検討していく。

▼条例の制定・一部改正

自転車損害賠償保険の加入義務化

◎ 自転車損害賠償保険の加入が義務化されるが周知方法は。

▲ 県、他市町村と一体となって取り組むものであり、本町としては、町広報誌やホームページのほか、啓発チラシなどで周知していく。



介護予防サービスの整備

◎ 必要な体制整備とは、どのようなことをするのか。

▲ 介護サービス事業者が従う基準として、利用者の人権擁護、虐待防止の観点から、その発生を防止するための措置をとり、事業所はその担当者を定める。

▼令和2年度一般会計補正予算 スカイプール改修工事

◎ スカイプールが全面改修から部分改修に変更となった理由は。

▲ 費用の削減を図るため、見直しを行い、快適性よりも利用者の安全性を優先し部分改修とした。



スカイプール

▼令和3年度一般会計予算

税収減少、国や県の補助を活用

◎ 税収が減少し、厳しい状況だが、財政運営上どう捉えているか。

▲ 税収が約2億円減少したことは、本町の財政規模からすると大変厳しい状況である。平成17年の名古屋空港機能変更時に次ぐもので、今後も歳入の大幅な増加は期待できない。このため、来年度以降も非常に厳しい予算編成になると考えている。引き続き国や県の

補助制度を最大限活用するとともに、事業の見直しや廃止をしながらバランスのとれた予算編成が必要であると考えている。

子どもも参加、町制50周年事業

◎ 子どもたちが関われる企画も必要ではないか。また、サポーターや推進委員会の役割は何か。

▲ 町の未来を支えていく子どもたちが参加できる事業も検討する。サポーターはプロジェクトチームと共に50周年事業のイベントの企画や運営を、推進委員会はその企画された記念事業について審議し、町長に助言をしていただく。

総合福祉センターの指定管理

◎ 指定管理者制度導入の意義は。どのような成果を求めていくのか。

▲ 民間事業者などのノウハウを活用することで、経費の縮減や多様化する町民のニーズに対応した、きめ細やかなサービスの提供を期待することができる。また、地域の状況や利用者の特性を熟知している社会福祉協議会を指定管理者とすることで、より質の高い効率的なサービスを期待することができる。